

◆2014年度の講座の概要(抜粋)

※2015年度の講座は、2014年度を下敷きにして、さらに充実をはかる予定です。(講師の顔ぶれと講座の内容が2014年度から変更になることがあります。ご留意下さい)

◎横内謙介の講座

- ・最初の授業で、講座の年間予定と全体方針を説明
 - 講師(主に劇作家)が、各自の創作方法などをそれぞれのスタイルで語ったり実習を行う
 - 講義だけではなく、ストレートプレイのプロット作成と創作の連続実習も行う
 - 戯曲を書ける人は書いてかまわない。原則として希望する劇作家に講評してもらうことが可能
 - 受講生どうしで勉強会、リーディングを始めてみるなど、それぞれの個性を生かしてコミュニケーションの回路をつないでほしい
- ・演劇における「リアル」とは
- ・自作『おんな武将 NAOTORA』を語る(事前に観劇会を実施)
 - 歴史劇をやってみたかった
 - 人物の手本はシェイクスピアの作品
 - 能舞台のようなセットにしたことについて
 - 敵役、悪役の描き方について
 - 音楽の使い方について
- ・日本のこれまでの演劇の変遷と今後の傾向についてなど

◎平田オリザの講座

- ・グループに分かれて短編戯曲を創作する実習
 - 演劇を創るとはということか
 - 場所(空間)、背景(時間)、問題について
 - セミパブリックな空間について
 - 話し言葉について
 - グループごとに題材を決める
 - 登場人物の機能と出ハケについて
 - グループごとにプロットを作成する
 - できあがってきたプロットに対する講評
 - プロットにOKが出たらエピソードを考えてセリフを書いていく
 - 対話と会話
 - エピソードの使い方について
 - セリフの「冗長率」について
 - 各グループが創作した短編戯曲をリーディングで発表、そして、講評
 - リーディングで戯曲の弱点がよくわかる
 - 登場人物の機能について再確認
 - 登場人物の気持ちが変わる要因について
- など

◎長谷基弘の講座

- ・プロット実習講座
- ・演劇の構造と会話
 - 会話を書くことを疑似体験するエクササイズ
- ・プロット作成のエクササイズと講評
- ・グループに分かれてプロット創作をする実習
- ・テーマの掘り下げ方について
- ・伏線について
- ・ドラマリーディングの理論について
- ・ドラマリーディングのコツ
- ・ドラマリーディングを体験するグループワークなど

◎公開講座(2日間)

○中津留章仁のワークショップ

- ・座・高円寺の舞台を使って「舞台を体験するワークショップ」
 - 戯曲は、劇場という空間で演劇になる
 - シーンとそのつながりを、劇場空間の中でいろいろなスタイルで作ってみるなど

○長谷基弘のワークショップ

- ・「ことばから、ことばと身体を生み出す」
 - ことばを基点として、ひとつの場面をグループで創作するワークショップ
 - 身体からの発想で劇を作る
 - 劇作は個人作業だが稽古は集団作業であることを体験するなど

○演劇人インタビュー

出演: 福田善之 渡辺美佐子
聞き手: 渡辺えり 丸尾聡

○ドラマリーディング「劇作家たちの言葉」ー音楽と歌で台詞を紡ぐー

構成・演出: 渡辺えり

出演: 有馬自由、石田恭子、石村みか、伊東潤、大谷亮介、奥山隆、小椋毅、川口龍、久野綾希子、久保井研、グランドボノボ、河野洋一郎、高橋優太、高田恵篤、立花弘行、田根楽子、土屋良太、藤谷みき、毬谷友子、丸尾聡、緑魔子、若松力、渡辺えり
金子侑加、白勢未生、林ちゑ、東ゆうこ、廣田健、横澤有紀、アキラ、岩崎浩太郎、熊埜御堂彩、櫻井美代子、深海里沙子、中田康介、洞口菜穂、大須美津穂、橘田美穂、西山舞、福井夏、藤枝久純、宮野祥子、山田允、若松絵里、渡辺喜子

(歌) 白崎映美、山崎ハコ

(演奏) 十倉彩子、前田真梨子、山根千佳

◎坂手洋二の講座

- ・短編戯曲について考える
- ・自作『屋根裏』『だるまさんがころんだ』について
- ・劇場空間の発見
- ・無意識をささえる論理について
- ・演劇のやり方を通して世界を見ることについて
- ・演劇の「言葉」について
 - 報告書も作品になる
 - デヴィッド・ヘアの作品や『CVR』について
 - 現実をどう捉えるか
- ・脚本家の笠原和夫の方法について
- ・舞台は共同製作である
など

◎鈴木聡の講座

- ・僕の書き方
 - 日々の刺戟
 - ハマったものごとから作品を作る(競馬、ももクロ、など)
 - 構想と組み立て
 - 登退場と舞台上の力関係の構造、起承転結
 - しゃべりながらセリフを書く
 - 自作『をんな善哉』のプロットについて
- など

◎マキノハミの講座

- ・戯曲執筆のポイントと心構えについて
 - 推敲
 - ト書き
 - 登場人物のしゃべり方
- ・私の創作方法と戯曲執筆のコツ
 - 自作『横濱短編ホテル』などをテキストに
 - 小道具の使い方
 - 場所の設定
 - 登場人物の「秘密」
 - 「落差」について
- ・発想法について
など

◎ケラリーノ・サンドロヴィッチの講座

- ・自分の書き方
 - 作品のタイプが毎回違う
 - 書き方もバラバラ
 - 演劇は「モラル」ではない
 - 気持ちの移り変わり、いま興味あることに応じて作る
- ・どのようにして劇作家になったか
 - バスター・キートン、マルクス兄弟、モンティパイソン
 - ラジカル・ガジベリビンバ・システム
 - 劇団健康
 - ナイロン100℃
 - 『カラフルメリィでオハヨ』のこと
 - など

◎丸尾聡の講座

- ・俳優はどのように戯曲を読むのか、俳優の視点から体験してみる
- ・劇作家が持つべき身体性について
- ・テキストの読み合わせをする実習
- など

◎佃典彦の講座

- ・書く動機は？
- ・書くきっかけは？
- ・書くときに、音楽・照明を意識するか？
- ・良いラストの書き方は？
- ・役者と劇作家の両立は？
- ・書くときに上演時間を意識するか？
- ・登場人物の描き方は？
- ・劇団活動の苦労は？
- ・書くときのこだわりは？
- ・最短でどのくらいで戯曲が書けるか？
- ・僕の書き方
 - タイトル
 - いつ、どこ、だれ？
 - 途中で行き詰まったときにどうするか
 - 登場人物を追い詰める方法
- など

◎**鴻上尚史**の講座

- ・作家としての考え方とコツ
- ・戯曲を書くのに大事なこと
 - 「表現」と「表出」
 - who、when、where、what
 - 起承転結の配分
 - 登場人物の目的と障害
 - 行動を書く
 - 多重層理論
 - 不条理劇のこと
- など

◎**故林広志**の講座

- ・「笑い」の創作について
 - 「笑い」の緩和作用
 - 「笑い」を生む状況
- ・コントの手法
 - 単純化
 - 掛け合わせ
 - 緊張の緩和と対比
 - 人物設定
- ・コントの課題を出し、提出作品を講評する
- など

◎**土田英生**の講座

- ・「表現する」とはどういうことか
- ・セリフをどう書くか？
 - 短くて、かつ、状況を的確に観客に伝えるセリフを書く実習
- など

◎**中屋敷法仁**の講座

- ・誰に向けて書くか
- ・観客は素直で残酷
- ・優れた作品から何を得るか
- ・戯曲のタイトル、ト書き、登場人物を考える実習
- など

◎扇田昭彦の講座

- ・1960年代～2011年、日本の戯曲はどう変化したか
 - 60年代の大きな変化
 - 上演空間の模索
 - 劇構造の変化
 - 90年代以降の変化、演劇と社会状況との密接な結びつき
- ・世界の演劇の潮流と現在の日本の状況
- ・劇評を書くときに気をつけていることなど

◎永井愛の講座

- ・スタニスラフスキーシステムと戯曲について
 - 俳優の課題は劇作家の課題
 - 樋口一葉のこと
 - 映像作品(脚本家)と戯曲(劇作家)の違い
 - 劇作家は発明家である
- ・自作『鴉外の怪談』について
 - 国家への忠誠と表現活動の両方の立場をとった鴉外の内面と苦悩を、鴉外の家の中から描きたかった
 - 説明セリフをどう書くかなど

◎川村毅の講座

- ・80年代以降の演劇環境と自身の創作について
 - 作品を生む場所、土地、街
 - 国内と国外での反応、評価の違い
 - 自作『4』について
- ・ポストドラマ演劇についてなど

◎前川知大の講座

- ・自身の書き方とプロセスについて
 - 書き始めたきっかけと続けてきた動機
 - 劇作家と小説家の違い
 - 「対話」について
 - 他者からの批評について
- ・観客との共有について
- ・テーマについてなど

◎松本修の講座

- ・演出家にとって戯曲とは
 - 劇作家との関係
- ・私の創作法
 - ワークショップで作っていく方法
 - カフカの小説を元に俳優たちと上演台本を作っていく
 - 音楽から浮かぶイメージを元にワンシーンを作ってみる
- ・想像力をどう刺戟するか
など

◎西山水木の講座

- ・役者はどう戯曲を読み、どう役に近づいていくか
- ・体感について
- ・呼吸と発声について
など

◎渡辺えいの講座

- ・演劇にしかできないこと
- ・『ガラスの動物園』『楽屋』『オンディーヌ』、ピランデルロの作品のこと
- ・劇作家として考えること
- ・女性の劇作家が少ないこと
- ・現在の社会状況のこと
- ・高村光太郎、宮沢賢治のこと
- ・歌舞伎のこと
など